



お世話になった校舎に感謝を込めて

3月13日に34名の卒業生が通い慣れた本校を旅立ちました。卒業生が使用していた2階東側の教室と廊下は静まりかえり少し寂しさも感じられますが、また校舎のところどころに卒業生の名残もあり、懐かしさも感じられます。

そのような中、1・2学年では、4月からの新年度を迎える準備が着々と進められています。今年度最後の美化活動を実施し、一年間お世話になった各教室に感謝の気持ちを込めて、丁寧に清掃が行われていました。そういえば、3月の上旬に卒業生が床の汚れ落としを丁寧に行っていたのを思い出しました。後輩の皆さんは先輩からの伝統のバトンをしっかりと受け継いでくれます。がんばれ！1・2年生



綺麗な状態で次の新入生にバトンタッチ

令和5年度大変お世話になりました

令和5年度全日数205日の授業が本日で終了となりました。途中インフルエンザの感染状況で学級が閉鎖となり、各学年、各個人で授業日数は異なりますが、例年通り第3学期の終業式が無事実施できたこと、大変嬉しく思います。思えば4年前は新型コロナウイルス感染症対応のため臨時休校となり、終業式は実施できませんでした。13年前は東日本大震災及び原子力発電所の事故の影響で臨時休校となり、第3学期の終業式が全校で実施できなかったところが多くありました。光陰矢のごとしの諺のとおり、あっという間に一年が経過してしまいました。年明けに能登半島地震もあり、改めて当たり前の日常がどれほど大切で有り難いかを、身に染みて感じる事ができた一年間でした。



私は、当たり前に日常を過ごせるのは、いろいろな支えがあってのことと考えています。そのことを生徒に気づいてもらいたいと思い、この一年間あいさつの中で感謝ということばを意識して話してきました。卒業生答辞の中で古川龍星さんは、「これから私たちは、それぞれの夢や目標に向けて進んでいきます。この先、様々な困難があっても、私たちは、この喜久田中学校での経験をいかし、自分の信じる道を突き進んでいきます。すばらしい経験と思い出をくれた喜久田中学校、私たちの成長に寄り添ってくれたすべての方々に心から感謝して答辞といたします。」と結んでくれました。思いが伝わったような感じがして、とても嬉しく思いました。

令和5年度、保護者そして地域の皆さまのご支援とご協力に心より感謝申し上げます。今後とも本校への温かなご厚情を賜りますようお願い申し上げます、年度末の挨拶といたします。